

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

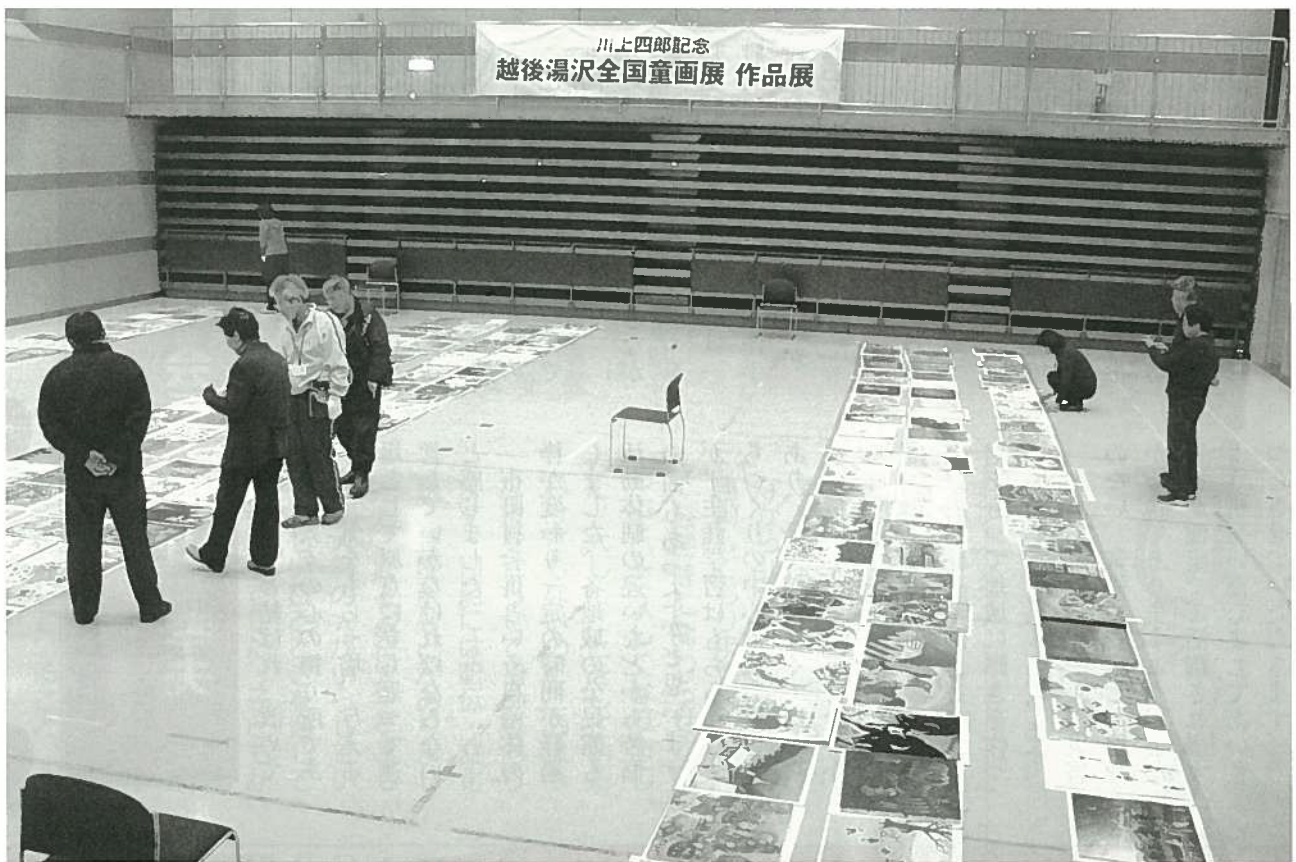


特集

限界集落の再生に思う 公民館活動の原点について

4.5

- 2 トピックス 年頭所感
- 3 視点 公民館による地域の教育力向上
- 3 ひろば 文化の香り
- 6 実践記録シリーズ 直江津学びの交流館
- 7 サークル交流 ダンスを楽しむ(長岡市) / 一針一針を根気よく(五泉市)
- 7 素顔拝見 沼波トシ子さん(上越市) / 今井 英幸さん(妙高市)



「越後湯沢全国童画展」
審査会準備風景

表紙解説

昨年(第14回)の風景です。これから審査が始まります。運営委員さんが審査前に気持ちの中でそれぞれ審査しているところでしょうか。

今年はどんな作品が入賞するのでしょうか。どうぞ作品展を見に来てください。

日本童画の父川上四郎記念

第15回「越後湯沢全国童画展」

同時開催：川上四郎特別展

平成23年3月5日(土)～14日(月)

湯沢町公民館ホール他

年頭所感

新潟県公民館連合会 会長 小山 孝夫



公民館関係者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

どうぞございます。まずもって年明けにあたり皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は新潟県公民館連合会にとりましての創立六十年という節目の年でありましたが、おかげさまで記念式典を盛会裏に終了できましたことに厚くお礼申し上げます。

新しい年がスタートしたばかりですが、年が改まることで欠かせないのが「こよみ」。現在の太陽暦を使用するようになったのは一八七三年(明治六年)からですが、当初の「こよみ」は小冊子の形が主だったそうです。

今日まで一枚刷り、日めくり、月めくりと、形態にも歴史があり、私たちの生活にな

くてはならない物ですが、子どもの頃、朝起きると日めくりの「こよみ」をめくっていたことを思い出しています。

今はIT社会ですから、携帯電話などで日や曜日を見られますが、長い時の流れを数える「こよみ」は、今年一年あるいは将来に向けて「今年はんばるぞ」「連休は?」など、それぞれに希望を抱かせてくれています。みなさんは今年の「こよみ」にどんなことを思いましたか。

ところで近年、不況による雇用問題、自然環境の変化、高齢化による介護問題、情報技術の進展などめまぐるしく変遷しています。よく「世の中、忙しくなったね」と言葉聞きます。実は私も日ごろから忙しく感じているほうです。

こんな中、「戸しぐさ」という言葉を知り、江戸人の心や思いやりが書かれた関係書

を読む中で、「忙しい」という文字は、心を表すりつしん偏に亡ぼすと書き、心を亡ぼすことで「心がない」ということと同じこと、「忘れた」も同じで、江戸人は何よりも「忙しい」を嫌っていたとのこと。時が流れて今の時代でも同じことと思います。

最近では、街中で歩きながら、電車の中で携帯メールをしている人を見かけるのは一般的になっています。伝達手段として便利と思えますが、心配りを忘れてほしくないものです。

さて、公民館が誕生した理由には皆さん、十分にご承知のことと思います。昨年十一月の上越地域三市公民館連絡協議会の研修会で、お招きした新潟経営大学の中島純先生は、人と人との交わりを大切に

にした公民館は「交民館」。多様な人々を巻き込んで地域にぎわいを、公民館は学びの

ふるさと」と結ばれ、改めて地域の人々の心の拠り所であり、元気をもらう場、与える場として原点に立ち返って運営していかねければならないと感じました。

市町村合併という自治体の枠が変わり一定の時間が経過しました。各地域の公民館も活動体制の違いなどから苦悩の面もあったかと思いますが、生涯学習はもちろん、まちづくりの中心は社会教育であり、公民館はなくてはならない機関です。市町村合併から昨年までを第一段階とすれば、第二段階として、さらに公民館関係者の知恵と力と自信をもって地域に輝きを作っていくってほしいと思います。

ともあれ、今年一年が災害のない、気候も安定した穏やかな年でありますよう、また皆様健康で活躍されますよう祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

公民館による 地域の教育力向上



県立生涯学習推進センター学習振興課長 諏訪部寛栄

教育の近年の課題として、学校、家庭、地域が連携して地域の教育力を向上させていくことがあります。そのため、教育基本法第十三条には、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、(一部略)、相互の連携及び協力を努めるものとする」と新たに規定されました。

私が平成二十一年度まで中学校現場にいた時には、新たに地区の公民館長へも学校行事等のご案内を差し上げ、小学校だけでなく、中学校の現状を見ていただき、連携と協力関係をつくる努力をして参

りました。

現在の勤務場所である県立生涯学習推進センターでは、生涯学習・社会教育関係職員の皆様を対象にした研修会を多く設けています。公民館職員の方々も多数受講され、「地域づくり」、「人づくり」のための企画力や運営力を高める研修会になっています。ぜひ、今後も多くの皆様が当センターの講座を受講し、企画力、運営力を高め、公民館の事業が一層活性化され、地域の教育力向上に貢献することを期待しています。

H O T N E W S 掲 示 板

全国公民館報コンクール 優 秀 賞 受賞

このたび、本誌が、第1回全国都道府県公民館連合会広報誌コンクールにおいて「優秀賞」を受賞しました。

このコンクールは、全国公民館連合会が主催して11月に開催されたもので、12月9日に受賞の通知が事務局に届きました。

当誌は、県内市町村公民館と関係者の皆様からいただいた原稿を元に事務局が編集し、今月発行の1月号で695号になりました。第1号の発行は昭和28年で、平成23年6月号には700号になる予定です。これまでの積み重ねも受賞の大きな力になりました。

なお、応募した「新潟県公民館月報」は全国公民館連合会のホームページや「月刊公民館」に掲載され全国で紹介される予定です。また、副賞として5万円いただきました。この用途については、劣化が進んでいる初期の公民館月報を電子データ保存する費用の一部にしたいと思っています。

皆様とともに受賞を喜ぶとともに、今後とも「公民館月報」をよろしく願っています。

文化の香り



関川村公民館・公運審副委員長 新野 明美

日ごとに寒さも深まってまいりました。私は、春は新緑秋は紅葉の山々を眺めながら40分程を村上市まで通勤しております。

公民館に関わらせていただいて久しくなりました。大したことをしているわけでもないのにこのような役をやらせて頂いております。11月には駅伝・文化祭・芸能祭などがありますね。私も見に行きました。大勢の人がいらして楽しいひとときを過ごしているようでした。子どもから大人まで日頃の練習の成果を一生懸命に発表しておりました。雪の多いこの村で、こんなに多くの人が文化活動をしていること。趣味が生きがいとなり、それが「文化」をつくることにつながっていくことを思うと、この人達の活動の意欲を見守ってあげること。活動しやすいい環境をつくってあげること。よい指導者がいること。自立を促してやることなどが、公民館としてやるべきことではないかと思えました。それが公民館の活性化となり、地域づくりだと感じました。秋の日に「文化の香り」を楽しんだひとときでした。



公民館に関わらせていただいて久しくなりました。大したことをしているわけでもないのにこのような役をやらせて頂いております。11月には駅伝・文化祭・芸能祭などがありますね。私も見に行きました。大勢の人がいらして楽しいひとときを過ごしているようでした。子どもから大人まで日頃の練習の成果を一生懸命に発表しておりました。雪の多いこの村で、こんなに多くの人が文化活動をしていること。趣味

思う 活動の原点について

生活扶助、除雪負担軽減、医療の提供などインフラ面の整備と福祉的ケアが必要である。

もうひとつ大事なことは、心の支え、生きがい。毎日の生活には欠かせないということである。一人暮らしでは三度三度の料理も、食べてくれる人がいなければ手抜きになりがちだし、洗濯、掃除もやる気が薄れてくるものだろう。なにか心の支えになるものが必要である。

以前、民族研究家の結城登美雄先生のお話を伺ったことがあるが、高齢者が一人暮らしになっても子どもの暮らす都会に行かないで、その土地から離れないのは、そこに文化があるからだとおっしゃっていた。みんなが集まって天候の話、作物の話、料理の話、孫の話をし、お酒を酌み交わし、歌を歌い、土地の信仰を守る。それが文化であり、お互いを強く結び付けている。知らない土地に行っても、そこまでの人間関係をつくるには途方もない時間がかかることが分かっているから移住できないし、今の暮らしの不便さを受け入れて余りある居心地のよさがある。



3. 公民館の役割

昭和の大合併で公民館の分館の多くが消えたが、分館は集まる人皆が知り合いで安心できる場所である。職員が常駐していて毎日何かの講座

がある必要はなく、ただお茶を飲み語り合える場所でもいいのではないかと。

以前は少しくらい遠いところでも歩いて行けたから小学校区単位でもよかったのかもしれないが、限界集落では集落単位で公民館があることが望ましい。条例の改正などなくてもいわゆる自治公民館として公民館的活動ができればよい。昼はみんなが料理を一品ずつ持ち寄る。一人暮らしでは自分だけのための食事づくりは気が進まないが、みんなのためなら意欲もわいてくる。健康維持のため簡単な体操を行い、ときどき地区公民館が出前講座的に出かけていく。

また、今、子どもたちにとって地域の教育力が低下しているといわれているが、子どもたちにとってもチャンスである。今の子どもたちは地域から学ぶ機会が閉ざされている。限界集落は知識の宝庫である。昔ながらの文化も残っている。子どもたちと集落の交流は、子どもたちの学びと地域文化保存の一石二鳥である。たとえば市内の小中学生の畑作体験や中高生による集会所掃除ボランティアなどの簡単なことから始めればよいのではないかと。そば打ち、納豆作り、こんにゃく練り、団子作り、餅つき、或いは節句行事などが復活すれば集落も元気付く。縁日や鳥追い行事なども復活してもらいたい。

都会には田舎暮らし希望者も多い。受け入れのために一番必要なのは地域の元気さと文化である。聞き取りに伺った集落は、もちろんお年寄りの方ばかりであったが、みんな親切で屈託がなく、明るかった。まだ復活の可能性も充分あると思う。

十日町市中央公民館
〒948-0022 十日町市学校町1
TEL (025) 757-5011 FAX (025) 757-5010
E-mail t-edu-kominkan@city.tokamachi.lg.jp

特集

限界集落の再生に
公民館

十日町市中央公民館長
広田 公男

1. 限界集落の実態

限界集落とは、構成員の半数以上が65歳以上の集落のことをいい、高知大学大野晃名誉教授が平成3年に提唱した概念である。集落の共同体としての機能が限界に達し、やがては集落の消滅が危惧される。単なる過疎という言葉では言い表すことができないという意味合いから生まれた言葉だとされている。呼び方については批判もあり、国では「基礎的条件の厳しい集落」、「維持が困難な集落」等の言い方が使われている。しかし、問題を国民全体で共有するため「限界集落」という語をあえて普及しようとする動きもある。

平成18年度の国土交通省の調査によれば、過疎法に指定されている全国の775市町村の全集落62,271のうち、限界集落が7,871(12.6%)あった。十日町市では平成22年度で53集落(12.2%)が限界集落だった。18年度が40、19年度が44と毎年増えており、全体の1割を超えるまでになった。19年度に限界集落全世帯を対象として生活実態アンケート調査と現場調査を行い、その後抽出で集落民からの聞き取り調査を行った。

限界集落は、一般に市街地からは離れている。また、集落同士も離れている。生活面では、食料品など生活必需品の買い物、病院や金融機関への交通手段など生活交通の問題が大きい。自家用車の保有率は、高齢者のみ世帯でも50%を超えていたが、高齢化とともに保有は減り、高齢化率が75%を超えている世帯数十世帯の集落では、自動車といっても集落内には軽トラックが2台しかなく、「集落の女衆を買い物に連れて行ってやりたいが、1回に1人しか乗せられない」と嘆いてい

た。また、バスが利用できたとしても、店舗からバス停、バス停から自宅までは重い荷物を手に持って歩かなければならないため、高齢者には相当の苦痛となる。

そうした集落では一人暮らしの方も多く、平成19年当時、高齢者一人暮らし世帯の割合は市平均では7.2%であったが、限界集落では2倍の14%であった。高齢者の一人暮らし世帯で一番心配なこと、困っていることの第1位は、急病になった場合自分で救急車を呼べるだろうかということであり、55%であった。次が炊事や洗濯など家事が大変だという回答が多く、体力、気力が落ちてきていることが推察される。高齢者夫婦世帯になると、いつかは一人暮らしになってしまう日が来ることに対する不安が38%と最も多かった。

また、雪国ならではの問題として雪対策があげられる。特に玄関先の雪かきは毎日の作業だけに負担が大きい。ある集落では女性の一人暮らしで両膝の具合が悪く、松葉づえをしながらのカンジキ作業であった。

一般に限界集落では、集落機能の維持が困難とされる。道路、水路、お宮などの管理がだんだんできなくなる。祭りや鳥追いもできなくなる。かつては大きな恵みをもたらした共有林も今は手入れができなくなっている。ある集落では、集落集会所に観音堂を祀っていた。以前は、お堂が独立してあったが、雪囲いや冬の道付け、屋根雪の処理等に困り、集会所を建設するときに移設したのであろう。訪れた集落の3つほどが集会所内にあった。どこもお供え物があふれていた。

2. 限界集落対策

人口が増えないことにはどんな対策も抜本的な解決策にはならないが、一朝一夕にできることではない。急がれる対策としては、やはり生活交通、

実践記録

154

シリーズ

多目的生涯学習施設「直江津学びの交流館」について

上越市教育委員会事務局公民館 庶務係 係長 佐藤 智和

市民に学習活動、文化活動及び読書活動の場を提供することにより、市民による生涯学習及び文化交流の振興を図り、もって活力ある地域社会の形成に資することを目的として、平成22年10月1日、「直江津学びの交流館」がオープンした。

施設の整備に当たっては、老朽化が進む直江津図書館及び社会教育館の移転・整備を目的に策定した「直江津図書館・社会教育館整備基本計画」に基づき、JR直江津駅前のホテルの一部を活用し、平成21年度より工事を進めてきた。

当館は、駅前・街中にあるという特性上、地元の市民活動団体を始め、通勤・通学者、買い物客等の市民に加え、市外からのビジネス客や観光客からも幅広く気軽に立ち寄れる施設を目指している。

(施設の概要)

当館は、直江津図書館と生涯学習活動の拠点とを備えた複合施設として位置付けられる。

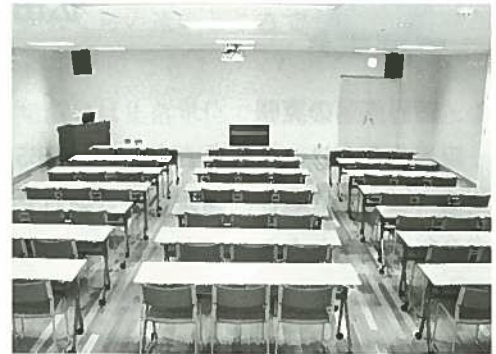
直江津図書館を始め、市民が各種イベントの開催に利用できるイベントホール等の貸室のほか、ゆったりとくつろげる空間も設けている。

また、点字ブロックやエレベータはもとより、多機能トイレや授乳室を設置するなど、市の公共建築物ユニバーサルデザイン指針に基づきつつ、広く市民が安全かつ快適に利用できるよう配慮している。主な貸室等は次のとおり（()内は定員）。

- イベントホール (70人)
各種講演会や講座のほか、展示会の開催等に利用可能
- 音楽室 (40人)
合唱や合奏等の練習や発表会に利用可能
- 市民活動室
市民活動団体の打合せや印刷作業等に利用可能
- 世代間交流コーナー
地域に関する情報の収集・発信用端末のほか、テレビや新聞を置き、くつろぎながら歓談可能 (iPadも8台設置)



- 多目的ホール A・B・C (各室30人)
3室連結して120人まで利用可能。また、持込みのパソコンで無線LANによるインターネット接続も利用可能



- 乳幼児プレイルーム
乳幼児とその保護者が自由に遊べる場。授乳室も隣接



(開館後の状況)

来館者数は、オープン以来、一日当たり約1,000人に上る (平成22年11月30日現在)。

貸室の利用状況については、一日・一室当たり1件以上の利用が確保されている。

主な利用団体は、地元の音楽サークルや書道教室を始め、ダンスサークル、ガールスカウト等多彩である。

また、イベントホールにおいては、絵画の展示即売会や大学の企画展示、各種講演会等が開催されるとともに、地元の商店街による出展も時折行われ、にぎわいの創出をもたらしている。

上越市立公民館

〒943-0838 上越市大手町5-40

TEL (025) 524-3106 FAX (025) 525-3170

E-mail j-kouminkan@city.joetsu.lg.jp

ダンスを楽しむ

フラミンゴ

皆さんこんにちは。私どもの会は、社交ダンスを楽しむダンスサークル、フラミンゴといえます。会は毎月先生のレッスンを3回受け、その後自主レッスン、予習復習を3回から5回ほど練習を行い、その他に、1年間に大パーティーを8回行っております。

長岡市はもとより、他の市町村からの参加者も多くあり楽しく踊っております。当会員の多くは、長岡市を中心に多くのかたがたが、参加されています。会員数は20名ほど



で活動しております。踊りながら体力アップをはかる人、踊りのレベルアップをはかり上を目指す人、会員との付き合いを楽しむ人と色々あり、和やかに活動しております。

長岡市・フラミンゴ
五十嵐 守雄 記



一針一針を根気よく

パッチワークサークル

「まあきれい」「すてきな色合わせ」と挨拶も忘れて仲間の皆さんの作品に目が集中している様子は、まるで乙女の雰囲気。ここに集まる皆さんの約束事は、満六〇歳以上、五泉市市展(作品展)に出品

する事です。その目標に向かって「一針一針」根気とやる気で頑張っているパッチワークのサークル活動です。来年は二〇周年を迎えます。いつも「若い人からはアイデアを、年輩の方からは知恵を。」を合言葉に、思い出の布・新しい布を三角四角と繋ぎ合わせ針を運んでいます。出来上がりを頭に描きながら、自分や家族のために世界に一枚だけの作品創りを頑張っています。

五泉市・パッチワークサークル
金子 貴美子 記



谷浜分館に協力員として勤務されている、沼波トシ子さんをご紹介します。沼波さんはショートカットの似合う、健康的で素敵な女性です。長年、谷浜分館の協力員として、また、運動普及推進員や青少年育成会地域コーディネーターなども兼任し、地域活動のキーパーソンとして活躍されています。分館事業の企画・運営、共催事業の実施のほか、講座の合間に、ちょっとしたおしゃべり時間

上越市公民館 谷浜分館
協力員 沼波トシ子さん



「いつもニコニコ、爽やかな風」を職場に送ってくれる、今年度新採用の今井さん。

青少年健全育成事業や市PTA連合会事務局担当として活躍しています。市民の皆様とのかかわりも多く、女性の人気も高いイケメンです。今は予算編成作業や新規事業の企画など、新たな仕事に挑戦しています。期待しています!

妙高市教育委員会 生涯学習課
主事補 今井 英幸さん



(妙高市教育委員会 生涯学習課 市民活動支援係長 関 栄朗 記)

素顔 拝見

を演出したり、花壇の手入れをしたりと谷浜分館を地域のオアシスにしています。

「何か新しいものを」「みんなが楽しめるものを」と、いつも工夫を凝らしていただいている沼波さんには、今後も谷浜地区の活性化のため、さらなるご活躍を期待しています。

(上越市立公民館直江津地区公民館 高橋理彦 記)



event information

新潟県社会教育委員の会議開催

第31期第1回新潟県社会教育委員の会議が開催されます。公民館関係者の代表として田原理・新潟県公民館連合会事務局長が委員として出席します。

- 1 日時 平成23年2月1日(火) 午前10時
- 2 会場 新潟県庁
- 3 議題 審議テーマ、審議計画、その他

下越地区公民館連絡協議会第2回代議員会の開催

- 1 日時 平成23年2月1日(火) 午後1時15分
- 2 会場 下越教育事務所
- 3 内容 事業報告、事業計画、県大会計画役員(案)、その他

【県民公開講座】「うつ病って、どんな病気？」

主催：(社)新潟県薬剤師会

- 1 日時 平成23年1月23日(日) 午後3時
- 2 会場 万代シルバーホテル
- 3 内容 講演Ⅰ
県福祉保健部障害福祉課
いのちとこころの支援室長
高橋 秀樹
講演Ⅱ
静岡県立こころの医療センター
院長 平田 豊明

* 入場無料

Net work ネットワーク

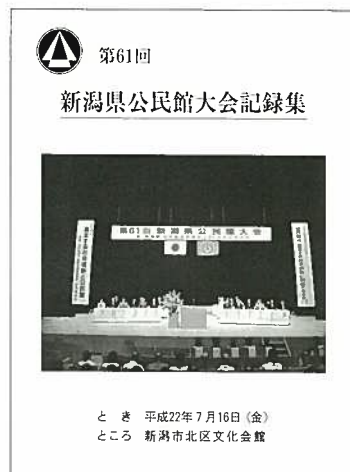
県大会記録集刊行

本年度の「第61回新潟県公民館大会記録集」が刊行されました。平成22年7月16日(金)新潟市北区文化会館において開催された「第61回新潟県公民館大会兼新潟県公民館連合会創立60周年記念式典」の「記録集」がこのほど編集作業が終了し刊行されました。

60ページに24枚の大会スナップ写真、開催日程・要項、記念講演、パネルディスカッションの記録がすべて掲載されています。

この冊子の作成は、新潟市大会実行委員(青木上記録集担当係長他7名)の皆さんが担当しました。

講演等の長大なテーマ起こしなど困難な編集作業でしたが、「記録」として公開し保存できる立派な冊子になりました。県内中央公民館に3部配布してあります。事務局にも予備がありますので、ご要望の方は連絡をお願いします。



事務局長のつぶやき
今年の干支の「壬子」は、古来、童話の「万子カチ山」(因幡の白兔)などするが、このことを考えるが、どこか抜けているかという役が多い。童謡の「待ちぼうけ」や「月の餅つき」などではひよっこんで親しみのあるキャラクターにもなっている。しばしば「就職試験の小論文に童謡」

あ と が き

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊かな土地、水資源良好な自然環境等に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 大 滝 平 正 (会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内(新潟市市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

さきとかめ「ではどちらが「偉いか」という問題が出されたとき、競争に勝ったかめを讃える回答より、全力で走る「さき」を得のいかなる節もあるが、企業としては「さき」タイプを採用したいのだろう。何か自分の人生の生き方を問われているようにある。私などは単純で「さきとかめ」のどちらが好きですかと問われたらさきばかり「さき」を讃える。酒場にある「ハニガール」は「さき」だからだ。